

BDF バイオ・ディーゼル燃料



このトラックが、廃食用油の収集に伺います。



「油の洗濯機みたいなものですよ」と理事長の鈴木さん。

廃食用油回収システム構築事業を実施しています

廃食用油から生成できるバイオディーゼル燃料(BDF)は、大気中の二酸化炭素を増やさずに、エネルギーの地産地消を進めることができるバイオ燃料として注目されています。

一般家庭から燃やせるごみとして出される廃食用油を再利用できるので、ごみを減量し地球温暖化の防止にもつながります。さらに生成したBDFを地

元で燃料として使うことができれば、循環型社会の形成にもつながります。

市では「家庭系廃食用油回収システム構築支援・BDF利用支援事業(県の委託事業)」を活用して、実際に廃食用油を回収するために「大館市てんぷら油回収システム協議会」を昨年11月に設立しました。

協議会を構成するのは、花岡

町婦人会、たつみ町町内会、特定非営利活動法人「工房JOYさあくる」の3団体。二つの町内から集まった油を収集し、BDFを生成するのが「工房JOYさあくる」です。

取り組みが始まって間も無い事業ですが、実際に生成したBDFを燃料に使っているということで、取材にお邪魔しました。

特定非営利活動法人「工房JOYさあくる」理事長 鈴木 千里さん

「工房JOYさあくる」は、

平成18年9月に特定非営利活動法人の認可を受け、市の地域活動支援センター業務などを受託しています。

以前からBDFの事業に興味はありましたが、法人の認可を受け、やっと資金繰りができるようになってきて、この事業に着手したところです。

BDFを生成する機械は、山形県のもので、山形県内では13自治体に納入実績があります。冬場は油が固まりやすくなるので、BDFの生成が難しくなるというところでしたが、東北地方のメーカーなので技術的な指導を受けて、無事に生成

ができています。

事業がスタートしてすぐに冬場を迎え、一番難しい時期に入りましたが、逆にこれを取り組めれば一年間安心して取り組めると思って頑張っています。

事業所にも協力をお願いしています

一定量のBDFを生成するためには、収集量を増やさなければいけないので、市内のスーパ、レストラン、コンビニなど、飲食関係の事業所(約80カ所)にもお願いして、廃食用油の供給を受けられるようになりました。ほかにも協力をいただける可能性のある事業所はありますが、



雪うさぎ
「工房JOYさあくる」
のマスコット

廃食用油の出る量やサイクルがまだつかめていないようです。
実績は、まだ計画の半分

スタートして1カ月の実績